

9001 とうぶてつどう 東武鉄道

(注)未回答。公開情報などから調査

【本社】 131-8522 東京都墨田区押上2-18-12 【TEL】 03-5962-2065
【設立】 1897.11 【上場】 1949.5 【決算期】 3月
【特色】 関東東武で路線最長、北関東地盤。東京スカイツリー軸に再開発推進。日光など沿線観光に注力

CSR評価

人材活用	環境	企業統治	社会性	基本
A	A	A	A	A
33.7	27.2	50.0	26.8	36.6

財務評価

成長性	収益性	安全性	規模
B	B	B	AAA
67.4	84.1	61.4	100.0

CSR全般

CSRの基本的取り組み

【経営理念】 有
【活動のマテリアリティ設定】 有
「地域社会の持続的な発展」「企業価値創造に資するコーポレート・ガバナンス」「多様な社員の「能力と可能性」向上」「環境優位性の更なる向上などによる環境負荷の低減」「グループ全体の事業の根幹である安全・安心の確保」
【方針の文書化】 有
(注)社会環境報告書
【活動の報告】 紙とWeb
【第三者の関与】 無
【統合報告書】 無
【ステークホルダー・エンゲージメント】 有 内容報告:行っている
年2回決算や中期経営計画の推進状況などを社長が説明している。株主向けのグループ施設見学会を年1回実施している
【汚職・贈収賄防止】 方針有
優越的な地位を濫用した不当な要求、過剰な接待・贈答を受けたり行わない。取引先と相互に信頼を築くため、法令および健全な商慣習に従い、公平・公正かつ透明な選定・取引を行うなど
【CSR部署】 一
【CSR等関連基準】 国際統合報告FW、SDGs、環境省環境報告ガイドライン2018年版
【CSR関連・表彰歴】
(19年度)「令和元年度東京都スポーツ推進企業」に認定(東京都。東武鉄道杯少年野球大会・サッカー大会へのボランティアスタッフ派遣に対して)

ESG・CGコード

【ESG情報の開示】 開示
【機関投資家・ESG調査機関等との対話】 行っている
【相談役・顧問制度】 有
相談役:0人 顧問:一
【指名・報酬委員会等の設置】 設置している

CSR調達

【CSR調達の実施】 一

社会課題解決の取り組み等

【SDGs】 参考している
【SDGsの対応】 目標4/目標5/目標7/目標8/目標9/目標10/目標11/目標12/目標13/目標15/目標16/目標17
【プロボノ支援の取り組み】 行っている
【プロボノ支援の具体例】 沿線小学校などを訪問して安全教室(電車・バス)、環境教育を実施
【社員の社会課題解決】 活動への協力

ガバナンス・法令順守・内部統制

取締役

【人数】 12人 【代表者数】 2人 【女性】 1人 【社外】 4人

監査役

【人数】 5人 【社外監査役】 3人

株主

【株式数】 209,815千株 【株主総数】 63,864人
【特定株比率】 28.2% 【浮動株比率】 19.9%
【所有者状況】 政府・地方公共団体 0.00%、金融機関 37.39%、金融商品取引業者 0.64%、他法人 7.13%、外国法人等 19.69%、個人他 35.16%

企業倫理

【方針の文書化・公開】 文書化・公開
【社員の行動規定】 有

法令順守

【部署】 コンプライアンス委員会

IR

【部署】 (兼任)財務部

内部通報・告発への対応

【内部通報・告発窓口】

社内: 設置済み
社外: 一

【通報・告発者の権利保護規定】 制定済み

内部統制への取り組み

【内部監査部門】 有

【内部統制の評価】 有効(2021年3月)

【情報セキュリティポリシー】 策定済み

【プライバシーポリシー】 制定済み

リスクマネジメント等への取り組み

【体制】 有

【基本方針】 有

【対応マニュアル】 有

【BCP策定】 有

【BCP想定】 地震/水害/落石、強風などの自然災害

【取り組み状況】 東日本大震災が発生した3月に、災害発生時の再確認として、お客様の避難誘導経路、避難誘導場所、連絡・召集体制、要注意箇所ならびに点検方法の確認等を実施するとともに、災害発生時の訓練として、現場画像共有システムを活用した本社と災害現場の状況画像の共有訓練、列車の一旦停止訓練等を実施。また、9月には防災週間に合わせ、大規模災害の発生を想定し、安否確認訓練や現業部門と連動した対策本部設置訓練等の災害対応訓練を実施

雇用・人材活用

基礎データ

【従業員】	合計	男	女
従業員数(人)	19年度 3,519	3,414	105
	20年度 3,531	—	—
平均年齢(歳)	19年度 46.7	47.1	33.5
	20年度 46.9	—	—
勤続年数(年)	19年度 25.5	26.0	10.2
	20年度 25.7	—	—
平均年間給与(円)	19年度 7,141,122	20年度 6,698,182	—
臨時雇用者数(人)	19年度 一	20年度 一	—
連結従業員数(人)	19年度 20,112	20年度 20,345	—
外国人従業員数(人)	19年度 一	20年度 一	—
連結外国人従業員数(人)	19年度 一	20年度 一	—

多様な人材活用

【役職登用状況】	女(人)	男(人)	外国人(人)	女性比率(%)
管理職	6	—	—	3.0
うち部長職以上	—	—	—	—
役員	1	—	—	3.6
うち執行役員	—	—	—	—
2021年3月現在	—	—	—	—

【多様な人材の管理職比率の目標】 女性:課長補佐に占める女性比率を計画期間(21年4月1日~26年3月31日)で5割増にする

【多様な人材登用推進の専任部署】 一

【推進の中長期ビジョン】 事業環境の変化に対応しイノベーションを創出するには、新たな価値を創造するための多様な人材の活用は不可欠であり、女性の活躍をはじめとしたダイバーシティの推進が重要である

【推進の取り組み】 ①18年6月に大手民鉄各社で立ち上げた勤務場所の都合で就労継続が困難な社員を相互で受け入れる「民鉄キャリアアレイ」に参加 ②女性管理職登用に向けたキャリア意識向上研修の実施 ③総合職採用における女性採用比率を25%以上にする

【退職した社員の再雇用制度】 有

【正社員の定年】 有:60歳

【65歳までの雇用】 全員雇用

【定年後の就業機会】 検討中

人権・労働問題

【人権尊重・差別禁止の方針】 有

【人権デューデリジェンス】 行っている

【人権尊重・差別禁止等の取り組み】 人権問題の研修推進に関する規程を設け、組織的・継続的に取り組み、研修計画に基づき適時・適切に研修教育を実施している

障害者雇用

【障害者雇用】	18年度	19年度	20年度
実人数(人)	94	96	93
障害者雇用率(%)	3.34	3.39	3.29

(注)5社の合計(東武鉄道、シノフォニア東武、東武インターテック、東武エンジニアリング、東武ステーションサービス)。20年度は20年6月現在

【特例子会社】 有(シノフォニア東武)

【障害者雇用の取り組み】 障害者の雇用を重要な社会的責務と考え、年間を通して新規採用を積極的に行っている

【陸運業】

人事評価・キャリア形成支援制度

【能力・業績評価基準】 —

ワーク・ライフ・バランス

【産児・育児】

産児休暇 —
配偶者の出産休暇制度 —
育児休業(最長) —

	18年度	19年度	20年度
産児取得者数(人)	—	—	—
育児取得者数(人)	—	26	—
育児取得率(%)	—	100.0	—
うち女取得者数(人)	—	24	—
うち男取得者数(人)	—	2	—
(1週間以内取得者数(人))	—	—	—
育児休業復職率(%)	—	—	—

【3歳〜就学前の子を持つ社員利用可能制度】 短時間勤務制度 / 始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ / 所定外労働をさせない制度 / 育児サービス費用を補助する制度

【特筆すべき両立支援制度】 ①小学校3年生までの子の養育、配偶者・子・父母の看護(上限3年)をする従業員は勤務時間の短縮、時差出勤ができる ②保存年次有給休暇:失効する年次有給休暇を積み立て(上限60日)、育児・看護等の事由に加えて、1年度につき5日まで子の入園式・入学式、運動会や授業参観等の学校主催の行事に使用できる ③再採用制度:妊娠・出産・育児・看護等のやむをえない事情により、退職することとなった従業員に対し、退職前に申し出をすることにより、再度就業できる機会を設けている ④企業主導型保育所を併設した子育てサポート付き社宅を設置

賃金・休暇・諸制度

【30歳平均賃金】 一円

【残業時間】 21.6時間 / 月

【残業削減の取り組み】 行っている

①本社部門では毎週金曜日を定時退社日としている ②経営幹部出席の会議で、定期的に時間外勤務状況の確認を行っている

【有給休暇】	付与日数	取得日数	取得率(%)
18年度	—	—	—
19年度	—	—	80.8
20年度	—	—	75.0

【勤務柔軟化への諸制度】 短時間勤務制度(小学校3年生までの子の養育、配偶者・子・父母の看護(上限3年)をする従業員は勤務時間の短縮ができる) / 時間単位の有給休暇制度(車掌・運転士を除く。本社部門:1時間単位、現業部門:1~4時間単位) / 在宅勤務制度(新型コロナウイルス感染症拡大に伴うもの) / サテライトオフィス(20年6月「ソライエプラスワーク草加松原」および「ソライエプラスワークふじみ野」を新たに開設) / 保育設備・手当(育児休業からの復職者や看護休暇者への支援金支給。保育サービス利用時費用の一部補助。企業主導型保育所付きの社宅あり) / 終業時間繰り上げに使用する有給休暇(年間56時間分、1時間単位で終業時間を早めて退社することができる(本社部門)) / 保存年次有給休暇(失効する年次有給休暇を積み立て(上限60日)、育児・看護のほか、1年度に5日まで配偶者や子の誕生日、子の学校主催の行事参加を理由に使用できる)

【テレワーク】 導入

労働安全衛生

【労働安全衛生マネジメントシステムの構築】 有

【主な取り組み】 安全衛生業務担当者等を配置。安全衛生委員会を設置。安全衛生管理業務の年間計画に基づき、KYTトレーナー養成研修、心理相談員養成研修など各種研修を実施している

【メンタルヘルスの取り組み】 ストレスチェック、精神科医による月3回のメンタルヘルスケア(カウンセリング)を実施

【ハラスメント防止】 行っている

【ハラスメント防止の取り組み】 ハラスメントに関する基本的な知識や具体例などの理解を深める資料を作成し教育を実施

消費者・取引先対応

【対応部署】 (専任)お客様センター

社会貢献

組織と支出

【担当部署】 —

事業事例

【地域社会参加】 主に小学生を対象とした体験・参加型のWebサイトで、親子で楽しめるさまざまなコンテンツを展開

【教育・学術支援】 「次世代育成支援対策推進法」に基づき、沿線の中学校・高校に対して、学校単位の社会科見学を受け入れ、鉄道の仕組みや安全への取り組み、働く意義を学習する機会を提供

【文化・芸術・スポーツ】 東武鉄道杯少年野球・少年サッカー大会をグループ社員などのボランティアにより開催

【新型コロナ課題解決への貢献】 行った(他)

【新型コロナ課題解決の具体例】 コロナ禍における新しい生活様式に対応した働き方をサポートするため、20年6月に郊外型のサテライトオフィス「ソライエプラスワーク草加松原」および「ソライエプラスワークふじみ野」を新たに開設

環 境

組織と情報開示

【担当部署】 環境推進委員会を設置

(注)委員会の事務局は広報部

【担当役員】 兼任有(広報部管掌取締役)

【同・環境業務比率】 半分以下

(注)環境推進委員会委員長

【方針の文書化】 有 【HP上の公開】 有

(注)環境省「環境報告ガイドライン2018年版」を参照して社会環境報告書作成

【公開の有無】 公開 【会計ベース】 東武鉄道およびグループ企業3社

パフォーマンス

【環境負荷量】	19年度	20年度
水資源投入量(m ³)	1,335,000	—
温室効果ガス排出量(t-CO ₂)	317,329	—
廃棄物等総排出量(t)	59,968	—

(注)集計範囲:東武鉄道、東武ステーションサービス、東武インターテック、東武エン지니어リング

管理体制

【環境監査】 定期的を実施

(注)南栗橋工場でのISO14001定期審査は、9月に内部監査、トップマネジメントレビュー、ISO審査会社による定期審査を実施

【EMS構築】 ISO14001認証取得

(注)グループの目指す環境経営システムの一環で南栗橋工場部門でISO14001の認証を取得しているが、環境推進委員会の下で、独自の目的、目標を設定し環境マネジメントシステムを運用している

その他環境関連指標・取り組み

【グリーン購入】 自社独自方針にのって実施

【原材料調達】

グリーン調達:包括的なガイドラインを定め実施

【環境ラベリング】 —

【環境・表彰歴】

(19年度)①2020GP環境「準大賞」((一社)日本印刷産業連合会。地球環境への負荷低減に関する積極的な取り組みとGP(グリーンプリンティング)マーク表示の印刷製品を多く発行したことに対して) ②「平成30年度省エネ大賞」省エネ事例部門の資源エネルギー庁長官賞(共同実施分野)(経済産業省。設計段階から運用段階まで一貫して省エネに取り組み、高い成果を挙げたことが評価)

地球環境保全への取り組み

【気候変動対応の取り組み】 行っている

【再生可能エネルギーの導入】 行っている

①東武鉄道社有地などを活用して、8カ所の太陽光発電所を稼働。年間発電量は約969万kWh、年間CO₂削減量は約4,896t ②04年からバイオマス発電によるグリーン電力を利用

【生物多様性保全への取り組み】 —

栃木県の社有林「とうぶの森とちぎ中央」で、栃木県企業局と協働で森林保全活動を行っている。19年には地元の小中学生など約90人にも参加してもらい、もやかし作業の体験や自然観察会などを実施

2020年度の環境目標・実績

【その他具体的な取り組み】 省エネルギー性能に優れた車両やLED照明の導入をさらに進める